

中玉トマトの夏越し長期どり作型における 培養液へのCaCl₂添加による高糖度化

1 背景・目的

中玉トマトは、近年、食味が重視され、養液栽培では培養液への塩類添加による高糖度化が普及している。そこで、夏越し長期どり作型において、大塚A処方²の2号タンクにCaCl₂を添加し、収量を維持しながら高糖度化を図る栽培法を検討する。

2 技術のポイント

- (1) 2号タンクのCaCl₂濃度を徐々に高め、さらに給液ECを上昇させることで、収量を維持しながら糖度7以上の割合を無添加に比べて約2倍に高めることができる(図、表)。
- (2) CaCl₂の添加は、第3花房開花期(4月下旬)から開始し、植物へのストレスが強すぎないように茎径や葉の状態を確認しながら行う。給液ECは、7月までに2.2程度に上げ、8月は暑さで草勢が低下するので1.8程度に下げ、9月以降は段階的に3.7程度まで上昇させる。

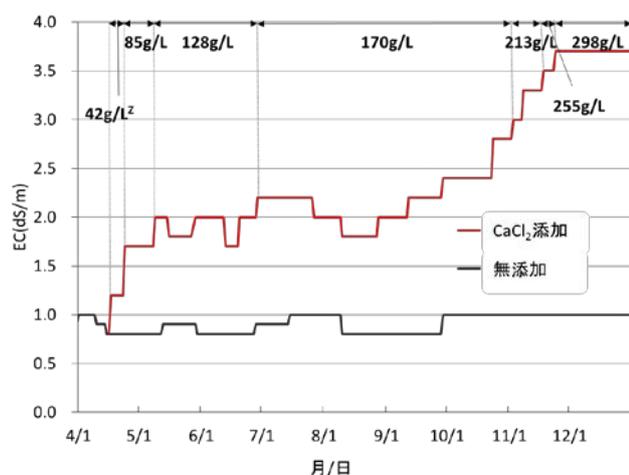


図 生育期間における給液ECの推移
²2号タンク中のCaCl₂濃度を示す

表 CaCl₂の添加による高糖度トマトの生産

試験区	総収量 (t/10a)	糖度7以上の割合 (%)
CaCl ₂ 添加	18.2	63.3
無添加	20.2	32.7

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 本試験は品種「フルティカ」、もみがら耕(CaCl₂添加区:かけ流し、無処理区:1/2量を回収し循環、給液EC:コントローラー設定)、栽植密度2300本/10aで実施した。
- (2) CaCl₂の添加により、マグネシウム欠乏が見られた場合は、1%のマグネシウムを含む溶液を葉面散布する。
- (3) CaCl₂は1号タンクに添加すると沈殿ができるため、必ず2号タンクに添加する。

問合せ:園芸栽培グループ TEL 076-257-6911

担当者:山崎いづみ・川村花織・松田賢一